資料－２

「秋田地区かわまちづくり懇談会」設立趣意書

平成 19 年 7 月 27 日

川は地域の風土と文化の源である。川は地域に多くの恵みを与え、豊かな自然を有する一方で、洪水時には暴れる一面も見せてきた。人々は暴れる川を治めるために堤防を築き、また、豊かな水を利用するために水路を設けるなど、治水・利水の営みを続け、この川のもたらす自然と人々の営みこそが地域の風土と文化であった。このような川と人との関わりは今日まで続き、また時代とともに変化してきた。

川は時に氾濫して人々の生活を脅かす畏怖すべき存在であるが、一方、人々が集い、賑わい、やすらぎ、癒される場であることがより一層求められるようになってきた。地域のふれあいの場、環境教育の場、訪れる人々との交流の場ともなり、地域の共有財産として世代を超えて伝承されるべきものである。世代を超えて伝承される川は、人々に大きな影響を与え、そのライフスタイルを変え、生まれ育った「まち」とそこを流れる「かわ」に対する誇りを醸成し、地域社会に活力を与えるものと考えられる。

川がこのような存在であるためには、十分な洪水防御は当然のこととして、川が緑豊かであり、清澄な水が豊かに流れ、沿川の街並みと一体となった快適な空間が存在して人々が水辺に集まることが必要である。川との乖離が懸念されているが、「かわづくり」と「まちづくり」の連携を図った一体となった空間の存在意義は大きいと思われる。

こうした中で、秋田地区には県内最大河川であり自然豊かな「雄物川」と秋田市の基盤となった佐竹公の城下町、さらにはその城下町を支えた舟運の川「旭川」がある。かつて、雄物川は上流の穀倉地帯と河港を結ぶ舟運が栄え、船場は人々が集い、賑わい、町場に発展したように、古くから「かわ」と「まち」は密接な関係にあった。

「秋田地区かわまちづくり」は、これらの「かわ」と「まち」のもつ潜在的な個性（豊かな自然、歴史、文化、食、遊、泊、体験など）を活かしつつ、有効的に結節させ、自らが楽しい地域を創造するものである。併せて、全国に発信することで観光及び賑わいを創出し、秋田地区全体の活性化を図ることを目指すものである。

「秋田地区かわまちづくり懇談会」は、雄物川、旭川で行われる活動と隣接する大町、新屋地区等で行われるまちづくり・景観づくり・地域活性化活動等の支援を行うために、具体的な取り組み等に対する意見交換、広報・広聴の場等として設立するものである。